

特別支援学級 生活単元学習指導略案

知的障害特別支援学級（はばたき学級 1組, 2組）

12人（1年男子3人, 女子1人, 2年男子1人, 3年女子1人, 4年男子2人, 5年女子3人, 6年男子1人）

指導者 T1 西窪 賢蔵 T2 秋野 麻衣子

1 単元名 秋を楽しもう

2 単元の目標

- 秋の自然に興味・関心をもち、主体的に活動に取り組むことができる。
- 見つけた秋の紹介、自然の材料を使ったおもちゃ作り、招待状の作成、パーティーの開催などを通して、それぞれの学習に必要な知識や技能を身に付けることができる。
- 友達と一緒に活動する中で、互いのよさや頑張りを認め合い、協力し合うことができる。

3 単元でめざす子供の姿

主体性	秋探しから、パーティーまでの一連の活動に見通しをもち、課題を解決しようとする。
協働性	見つけた秋の紹介やおもちゃ作りなどで、互いの思いや考えを伝え合い、協力して課題を解決しようとする。
創造性	互いのよさや頑張りを認め合い、支援学級や交流学級の友達と望ましい関係を築いていこうとする。

4 単元設定の理由

子供たちはこれまでに、「春をさがそう」、「やさいはかせになろう」の学習で、校内の木々や学級園の草花を観察したり、野菜の世話や収穫をしたりして、季節を感じながら自然や四季の移り変わりを学習してきた。また、秋については昨年度、落ち葉や木の葉の形から見立てた動物や昆虫等を絵に表し、木の葉や落ち葉の形や色に興味をもって製作を楽しむことができた。そのため、子供たちは、自然と触れ合う活動や季節を感じる学習を楽しみにしている。

そこで本単元では、秋の自然に触れる活動を通して、自然への興味・関心を高め、主体的に活動できるようにする。また、友達に自分の調べたことや考えたことを発表したり、自然の材料で作ったおもちゃを作り、交流学級の友達を招待したりする活動を通して、それぞれの学習に必要な知識・技能を身に付けるようにする。そして、パーティーを成功させるために、子供たちが協力する中で、互いのよさや頑張りを認め合えるようにする。

この単元を通して、子供たちが季節を感じるとともに、活動で身に付けた知識・技能を学習や実生活に生かそうという意欲を高めることができると考える。また、支援学級や交流学級の友達と関わりをもつ中で、交流の輪を広げ、自信をもって他者と関わろうという思いを高めることができると考える。

5 指導計画（総時数 13時間）

過程	時	学習課題	主な学習活動
つかみ・見通す	1	学習計画を立てよう	単元の学習に見通しをもち、学習計画を立てる。
活動する	2	秋探しをしよう	身の回りの秋を探して紹介する。
	5	秋探しで見つけたものを使っておもちゃを作ろう(本時)	どんぐりや松ぼっくり等を使っておもちゃを作る。
	3	お店の準備をしよう	パーティーに向けてお店の準備をする。
振り返る	1	パーティーを開こう	交流学級の友達や先生を招待してパーティーをする。
	1	活動を振り返ろう	これまでの学習を文や絵で振り返る。
新たな学び		単元名「ようこそあすはばカレンダーやへ」	あすはばカレンダーを作り、フェスタ山下で販売する。

6 本時（6 / 13）

(1) 目標

改善点を生かして、おもちゃを完成させることができる。

個人目標	内容	内容	内容
A児(1年)	先生や友達と一緒に、おもちゃにシールを貼ることができる。	G児(4年)	手順を友達と確認して、外れないように材料を付けておもちゃを作ることができる。
B児(1年)	一つ一つの手順を確認して、おもちゃを完成させることができる。	H児(4年)	道具を正しく使って材料を切り分けることができる。
C児(1年)	友達と協力して、決まったひもの長さを測り取ることができる。	I児(5年)	手順を理解して友達に教え、協力しておもちゃを完成させることができる。
D児(1年)	先生や友達と一緒に、おもちゃにテープやシールを貼ることができる。	J児(5年)	手順を理解し、道具を正しく使い、安全におもちゃを作ることができる。
E児(2年)	友達と一緒に道具を正しく使い、決まった場所に材料を付けることができる。	K児(5年)	改善のための工夫を友達に伝えて、よりよいおもちゃを完成させることができる。
F児(3年)	自分の意見を友達に伝えて、協力しておもちゃを完成させることができる。	L児(6年)	改善のための工夫を考え、友達と協力しておもちゃを完成させることができる。

(2) 指導に当たって

ア 主体的な学びを実現する教師の手立て

「丁寧に」、「安全に」、「協力して」の三つの大切なポイントを確認し、前時の自己評価カードの振り返りを基に「今日がんばること」（個人のめあて）を明確にし、見通しをもって活動できるようにする。

イ 対話的な学びを実現する教師の手立て

高学年は、個人目標に近い子供同士のペアを作ることで、課題解決に向けて互いの考えを伝え合い、おもちゃをより工夫して作ることができるようにする。また、低、中学年は、実態に応じて互いに教え合ったり助け合ったりできる子供同士のペアを作り、一人一人が自分の役割を自覚し、協力しておもちゃを作ることができるようにする。

ウ 深い学びを実現する教師の働き掛け

「交流学級の友達は、みんなが作ったおもちゃで楽しく遊んでくれるかな。」と問い掛けることで、今回のおもちゃ作りは、自分たちだけではなく、交流学級の友達にも楽しんでもらうことが目的であることを確認することで、相手意識を高め、友達が楽しく遊べるための工夫や改善点を考えておもちゃを完成できるようにする。

(3) 展開 □ 教師の言葉掛け () 予想される子供の反応 聞く, 話す, 見る, 動く 学びを充実させるための活動 ◆評価に関すること ☆はICT活用上の留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子供の反応	子供に応じた具体的な手立て
つかむ・見通す (15)	<p>1 学習の流れを確認する。</p> <p>2 秋クイズをする。聞く</p> <p>3 本時の学習について知る。</p> <p>4 本時のめあてを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">みんなが楽しく遊べるおもちゃを完成させよう。</p> <p>(1) 大切なポイントを確認する。 ・ 丁寧に ・ 協力して ・ 安全に</p> <p>(2) 個人のめあて(「今日頑張ること」)を決める。 今日は、丁寧におもちゃを作って、完成させたいな。</p>	<p>○ 秋に関するクイズに取り組むことで、本時の活動への興味・関心を高めるようにする。【主】</p> <p>☆ 「単元マップ」や、前時の活動の様子を写真で提示することで、これまでの学習を想起して、本時の学習の見直しをもつことができるようにする。【主】</p> <p>○ 大切なポイント「丁寧に○○する。」「協力して○○する。」「安全に気を付けて○○する。」など、言葉を書き込むめあてカードを準備することで、自分の言葉でめあてを決め、課題を把握できるようにする。また、めあては見えるところに掲示し、自己の課題をいつでも再確認できるようにする。【主】</p> <p>○ 前時に作った試作品の改善点を確認することで、本時のおもちゃ作りに見直しをもてるようにする。【主】</p> <p>○ 高学年は、個人目標に近い子供同士のグループを作ることで、共通の課題に向けて互いの考えを伝え合い、おもちゃをよりよく工夫することができるようにする。【対】</p> <p>○ 低、中学年は、実態に応じて互いに教え合ったり助け合ったりすることができそうな子供同士のペアを作ることで、一人一人が自分の役割を自覚し、協力しておもちゃを作るようにする。【対】</p> <p>☆ 製作の手順をタブレットPCでいつでも確認できるようにすることで、手順に気を付けておもちゃを作るようにする。【主】</p>
活動する (22)	<p>5 グループに分かれて活動する。話す 見る 動く</p> <p>大切なポイントに気を付けて、グループで協力して、おもちゃを完成させましょう。</p> <p>(1) おもちゃの改善点を確認する。</p> <p>(2) 手順を確認して、おもちゃを作る。</p> <p>※ 「松ぼっくりけん玉」、「どんぐり迷路」など</p> <p>枝を少し斜めにしたら、どんぐりが転がるよ。 → そうだね。枝を少し斜めにして、付けてみるね。</p> <p>このテープを使って飾ったらみんな喜ぶかもしれないよ。 → かわいいね。テープを使って飾りをつけよう。</p> <p>交流学級の友達は、みんなが作ったおもちゃで楽しく遊べるかな。他に工夫するところはないかな。</p> <p>どんぐりに顔を描いたら、みんなが喜ぶかもしれないな。 → 竹ひごの長さをもう少し長くしたら、バランスがとれるな。</p>	<p>A児： 赤、青、黄のシールを貼る場所に同色の印を付けることで、色を対応して正しくシールを貼ることができるようにする。</p> <p>B児： 一つの手順に一枚のスライドを準備することで、手順を理解できるようにする。</p> <p>C児： 基準となる長さを示したテープを貼った台紙を準備することで、テープにひもを重ねて同じ長さのひもを切り取ることができるようにする。</p> <p>D児： 飾りを付けたおもちゃの例を提示することで、見本を参考にテープやシールを使って飾りを付けることができるようにする。</p> <p>E児： 道具の使い方のモデルを示すことで、正しく使って材料を付けることができるようにする。</p> <p>F児： 相手に考えを伝える際に「声のものさし」を提示することで、声の大きさを意識して話し合うことができるようにする。</p> <p>G児： カラータイマーを提示したり、大切なポイントを振り返らせたりすることで、外れないように材料を付けて、おもちゃを作ることができるようにする。</p> <p>H児： 道具の置き場所や正しい使い方を提示することで、安全に気を付けて材料を切ることができるようにする。</p> <p>I児： 教えるときの望ましい言葉遣いを示したカードを提示することで、優しく教えることができるようにする。</p> <p>J児： 道具の使い方のモデルを提示することで、道具を正しく使い、安全に気を付けておもちゃを作ることができるようにする。</p> <p>K児： 友達に思いを伝える際に使う話型を提示することで、自分の考えを友達に伝えながらおもちゃを作ることができるようにする。</p> <p>L児： 改善点をいつでも確認できる場所に提示したり、考えた工夫を試すための材料を多く準備したりすることで、工夫を生かしておもちゃを作ることができるようにする。</p>
振り返る (8)	<p>6 本時の活動を振り返る。</p> <p>友達と協力して枝を丁寧に切って、おもちゃを完成させることができました。</p> <p>○○さんが、どんぐりを押さえてくれたから、穴を開けやすかったです。</p> <p>7 次時の活動について知る。</p> <p>パーティーに来てくれる友達のために、たくさんおもちゃを完成させたいな。</p>	<p>○ 「交流学級の友達は、このおもちゃで楽しく遊ぶことができるかな。」と問い掛けることで、新たに工夫して、おもちゃの完成に向けて意欲を高めるようにする。【深】</p> <p>◆ 作成の手順や、前時に話し合った改善点を基に、協力しておもちゃを作れたか。</p> <p>○ 「どうして完成することができたのかな。」と発問することで、自己の頑張りやできるようになったことについて考えることができるようにする。【主】</p> <p>○ 自己評価カードに、できるようになったことを自分の表現方法(文、記号等)で書くことで、自信をもち、次の学習への意欲を高められるようにする。【主】</p> <p>○ 「今日作ったおもちゃの数で、みんなが遊ぶことができますか。」と問い掛けることで、子供が「次はたくさんのおもちゃを作ろう。」と次時への見直しと活動意欲をもてるようにする。【深】</p>

「秋を楽しもう」本時（6／13）における授業想定シート

本時で期待される子供の姿

主体性	おもちゃ作りの見通しをもち、おもちゃを完成させようとする。
協働性	おもちゃの作り方や改善点について互いの考えを伝え合い、協力しておもちゃを完成しようとする。
創造性	相手意識をもち、より楽しく遊べるおもちゃにするための改善点を考えようとする。

育成を目指す資質・能力

自分たちが考えた改善点を生かして、みんなが楽しめるおもちゃを作ることができる。

本時で働かせたい「見方・考え方」

見方（～に着目して）

考え方（思考の枠組み・方法）

A・B・C・D・E・H・J児	作り方や改善点に着目して、自分の役割を考えておもちゃを作ることができる。
F・G・I・K・L児	改善点やこれまでの経験に着目して、よりよいおもちゃにするために、工夫しておもちゃを作ることができる。

見方・考え方を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く見方・考え方

5（2）手順を確認して、おもちゃを作る。

 大切なポイントに気を付けて、グループで協力しておもちゃを完成させましょう。

 ぼくは、枝を切るよ。〇〇さんは、枝を接着剤で付けてね。
(B・C・F・G児)

分かった。僕が枝を付けるね。(全員)

 改善点は、飾りを付けるだったね。テープとシールで飾りを付けようよ。
(B・C・F・G・I・K・L児)

いいね。このシールを丸く並べて貼ったらかわいいよ。テープも貼るといいね。(B・C・D・F・G・H・I・J・K・L児)

 よいのができているね。交流学級の友達はこのおもちゃで楽しんでくれるかな。もっとよくするところはないですか。

 竹ひごの長さをもう少し長くしたら、バランスがとれて、低学年も楽しむことができそうだね。
(I・K・L児)

 これは少し難しいなあ。枝を減らしたら、どんぐりを転がすのが簡単になって、みんなも楽しめると思うな。
(F・G児)

そうしたらみんなが楽しく遊べるね。その方法でやってみよう。
(全員)

 交流学級の友達と遊ぶことを考えて、みんなが楽しめるおもちゃを完成させることができましたね。

作り方や改善点に着目して、互いの役割を考えておもちゃを作ることができる。

自分の役割を確認しておもちゃを作ることができる。

改善点に着目して、おもちゃをよりよくする方法を確認することができる。

改善点に着目して、おもちゃを工夫して作ることができる。

教師の発問、これまでの経験に着目して、みんなが楽しめるように、おもちゃを工夫して作ることができる。

改善点に着目して、協力して作ることができる。

振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- ・ 友達と協力して枝を丁寧に切って、おもちゃを完成させることができました。
(A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K児)
- ・ みんなが楽しめるように、棒の数を工夫してどんぐりを転がしやすくすることができました。
(F・G・I・K・L児)
- ・ 安全に気を付けて、おもちゃを作ることができました。
(E・H・J児)
- ・ みんなが楽しめるように、かわいい飾りを付けることができました。
(全員)